

小学校国語教科書における俳句単元の配置と 言語活動における課題

高橋 慶 熙

1. 本資料の目的と意義

近年、石塚修（2013）のように「切れ」に着目して創作指導を行ったり、西田拓郎・高木恵理（2012）のように学習者^①たちに自身の好きな句を模倣させて新たな句を創作させる指導を行ったりするなど数多くの俳句創作に関する実践が行われている。しかし、俳句の教材的価値は鑑賞指導にも存在しており、鑑賞指導と創作指導が連関することで、俳句指導の効果はより高められると考えられる。創作指導が注目されている現在の状況だからこそ、鑑賞指導と創作指導の連関を図るべきである。

よって、本研究では、鑑賞指導と創作指導の連関を図るために、俳句鑑賞単元と俳句創作単元がそれぞれ、現行小学校国語教科書にどのように配置されているのかを明らかにし、その課題について考察する。

さらに、俳句鑑賞単元と俳句創作単元の配置における課題を踏まえて、現行小学校国語教科書の俳句鑑賞単元及び俳句創作単元における言語活動の内容を一覧化し、課題を考察する。

本資料の意義は2つある。1つ目は、俳句鑑賞単元と俳句創作単元の配置を明らかにすることで、俳句鑑賞単元と俳句創作単元がどのような関係性なのかを明らかにできることである。これは、現行小学校国語教科書において、鑑賞指導と創作指導がどの程度連関しているのかを考察する際の参考資料となると考えられる。2つ目は、現行小学校国語教科書の俳句鑑賞単元及び俳句創作単元における言語活動の内容を一覧化し、現状の課題を提示することで、授業改善のための具体的な視点を提供できる点である。

また、本資料では俳句単元における言語活動の内容を調査対象としているが、俳句単元に掲載されている句も俳句単元の重要な要素である。よって、巻末に別表としてそれぞれの俳句鑑賞単元及び俳句創作単元に掲載されている句を一覧化して示す。なお、俳句創作単元に掲載されている句については、創作例として掲載されている場合と鑑賞の対象として掲載されている場合とがあったため、合わせて示す。

2. 調査対象と調査方法

調査対象は、光村図書、東京書籍、学校図書、教育出版の平成31年検定版小学校国語教科書である。

調査Iでは、俳句の鑑賞方法や鑑賞指導について言及していることを条件に、俳句鑑賞単元を

抽出した。さらに、俳句の創作方法や創作指導に言及していることを条件に俳句創作単元を抽出した。抽出結果を基に、俳句鑑賞単元及び俳句創作単元の配置における課題について考察する。

調査Ⅱでは、調査Ⅰでの結果及び考察を踏まえて、俳句鑑賞単元及び俳句創作単元の言語活動を一覧化し、それぞれの内容を比較し、特徴や課題について考察する。

3. 調査Ⅰの結果と考察

3.1 調査Ⅰの結果

次ページの表1は、俳句鑑賞単元及び俳句創作単元の抽出結果を整理したものである。塗りつぶされている単元が俳句鑑賞単元である。なお、光村図書及び東京書籍の小学校5年生、6年生の教科書は上下巻ではなく、一冊のみである。

3.2 調査Ⅰの考察

表1より、3年生及び4年生に俳句鑑賞単元は設定されている。これは、平成29年版小学校学習指導要領の〔第3学年及び第4学年〕における〔知識及び技能〕(3)に「ア易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。」と示されているためだと考えられる。表1及び小学校学習指導要領から、現行小学校国語教科書における俳句は、読むことの教材ではなく、言語文化に親しむための教材と捉えられていると考えられる。

また、俳句創作単元は5年生及び6年生に設定されている。これは、平成29年版小学校学習指導要領の〔第5学年及び第6学年〕における〔思考力、判断力、表現力等〕B書くこと(2)に「イ短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。」と示されているためだと考えられる。光村図書のみ、俳句鑑賞単元と俳句創作単元が連続しているが、そのほかの出版社の現行小学校国語教科書では、俳句鑑賞単元と俳句創作単元は連続しておらず、学年の隔たりがある。このことから、光村図書以外の出版社の現行小学校国語教科書では、俳句の鑑賞指導と創作指導の連関を児童の中に生じさせることは、難しいと考えられる。また、光村図書の俳句鑑賞単元と俳句創作単元の配置から、光村図書は単元の配置によって鑑賞指導と創作指導の連関を生み出そうとしていると考えられる。

さらに、表1から、全ての出版社において、鑑賞指導から創作指導という単元の流れは読み取れるが、創作指導から鑑賞指導という流れでは単元は設定されていない。この点に関連することとして、三藤恭弘(2014)は、物語の読解指導と創作指導について、従来のカリキュラムでは「読解」から「創作」という流れでしか指導が行われていなかったが、「創作」から「読解」というカリキュラム配置も存在するのではないかと指摘している。加えて、三藤(2014)は、物語の読解指導と創作指導を螺旋的に配置したカリキュラムを計画及び実施することで、児童たちの物語の読み書き能力が向上することを明らかにしており、創作指導が物語の読解指導に好影響を与えると結論付けている。物語と俳句という文種の違いはあるが、俳句指導においても、鑑賞指導と創作指導を螺旋的に配置し、鑑賞指導と創作指導の連関を高めることで、俳句指導の効果をよ

表1 平成31年検定版小学校国語教科書における俳句鑑賞単元と俳句創作単元

	光村図書	東京書籍	学校図書	教育出版
小1年・上				
小1年・下				
小2年・上				
小2年・下				
小3年・上	「俳句を楽しもう」		「俳句」	「俳句に親しむ」
小3年・下		「俳句に親しむ」		
小4年・上	「短歌・俳句に親しもう(一)」			
小4年・下	「短歌・俳句に親しもう(二)」			
小5年・上	「日常を十七音で」			「俳句を作ろう」
小5年・下			「俳句・短歌を作ろう」	
小6年・上		「心が動いたことを十七音で表そう」		
小6年・下				

り高められると考えられる。以上のことから、俳句指導においても、鑑賞指導から創作指導という単元の流れだけでなく、創作指導から鑑賞指導という単元の流れも設定し、鑑賞指導と創作指導の螺旋的なカリキュラムを実施する必要がある。

4. 調査Ⅱの結果と考察

4.1 調査Ⅱの結果

次ページの表2は、俳句鑑賞単元及び俳句創作単元における言語活動の内容を一覧化したものである。塗りつぶされている単元が俳句鑑賞単元である。以下、それぞれの出版社の特徴や課題について述べる。

[俳句鑑賞単元]

- ①光村図書 小3上 pp.58-87「俳句を楽しもう」
- 小4上 pp.84-85「短歌・俳句に親しもう(一)」
- 小4下 pp.60-61「短歌・俳句に親しもう(二)」

光村図書の特徴は、どの単元でも音読を取り入れている点である。しかし、それぞれの単元で音読の狙いは異なっている。「俳句を楽しもう」では、言葉の調子やひびきを楽しむため、「短歌・俳句を楽しもう(一)」では言葉の調子やひびきを楽しむため、及び暗唱のため、「短歌・俳句を

表2 平成31年検定版小学校国語教科書における俳句鑑賞単元及び俳句創作単元の言語活動

	光村図書	東京書籍	学校図書	教育出版
小三年・上	<p>【俳句を楽しもう】</p> <ul style="list-style-type: none"> 声に出して読み、言葉の調子やひびきを楽しみましょう。どこで区切って読むと、調子よく読めるか考えてみましょう。 俳句は、五・七・五の十七音で作られた短い詩です。ふつうは、「季語」という、きせつを表す言葉が入っています。俳句の十七音の中には、しぜんの様子や、そこから感じられることが表されています 		<p>【俳句】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉のひびきやリズムを楽しもう 俳句は五・七・五の十七音でできている詩です。五・七・五のなかみじかく決められたリズムの中で、きせつや風景などのようすを表しています。ひびきやリズムを楽しみながら音読してみましょう。 俳句の本から、同じものをよんだ俳句をあつめましょう。そして、あつめた俳句を音読したり、感想を伝え合ったりしてみましょう。 	<p>【俳句に親しむ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 声に出して読み、言葉のリズムを楽しみましょう。 俳句は、五・七・五の十七音で作られています。きせつを感じる心を大切にしているため、きせつを表す言葉（季語）が入っています。日本人は、むかしから俳句に親しんでいました。次は、どのような場面を表しているのでしょうか。様子を思い浮かべながら、声に出して読んで見ましょう。 学習した中から、自分が好きな俳句の一つを選んで書きうつし、えらんだ理由も書きましょう。
小三年・下		<p>【俳句に親しむ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 俳句は、日本でむかしから作られている短い詩です。俳句はふつう、五・七・五の十七音でできています。 俳句の中のきせつを表す言葉を「季語」といいます。五・七・五の音や季語に注意して、次の俳句を声に出して読んでみましょう。 五・七・五の音の切れ目や、どの言葉が季語であるかについて、友だちと話し合ってみよう。俳句の中からすきなものを俳句を短冊に書きうつして「四季のしおり」を作ったりしていいですね。 		
小四年・上	<p>【短歌・俳句に親しもう（一）】</p> <p>声に出して読み、言葉の調子やひびきを楽しみましょう。気に入ったものは、覚えて言ってみましょう。</p>			
小四年・下	<p>【短歌・俳句に親しもう（二）】</p> <p>声に出して読み、言葉の調子やひびきを楽しみましょう。作品に表された風景を想像してみましょう。</p>			
小五年・上	<p>【日常を十七音で】</p> <p>俳句は、季節を表す言葉を入れながら、五・七・五の十七音で感動を伝えます。みなさんも、生活の中で気づいたことや、おどろいたことなどを俳句にして伝えてみましょう。</p>			<p>【俳句を作ろう】</p> <ol style="list-style-type: none"> 最近の心が動いたできごとを思い出し、連想する言葉を集める。 音に合う言葉を選び、俳句を作る。 <ul style="list-style-type: none"> 俳句（教科書に掲載されている5年生の句）を読んで、感じたことや表現のくふうについて、話し合ってみましょう。また、自分でも俳句を作り、友達と読み合みましょう。
小五年・下	<p>決めよう集めよう 組み立てよう 書こう つなげよう 4 友達と読み合う (光村図書5年生用教科書は一冊のみである)</p>		<p>【俳句・短歌を作ろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ここでは、その五音・七音・五音のリズムを用いて、自分たちの作品を作りましょう。 俳句は十七音で表現する、世界で最も短い定型詩と言われています。俳句を作るときには、大事なことが二つあります。音数と季語です。 次の俳句の（ ）にいろいろな言葉を当てはめ、情景を思い浮かべましょう。 	
小六年・上		<p>【心が動いたことを十七音で表そう】</p> <p>生活をふり返り、心が動いたことを俳句で表しましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 俳句を読む。 題材を集める。 発見や感動を俳句で表す。 五・七・五で表し、俳句を仕上げる。 発見や感動を俳句で表す。 感想を伝え合う。 <p>(東京書籍6年生用教科書は一冊のみである。)</p>		
小六年・下				

楽しもう（二）」では言葉の調子やひびきを楽しむため、及び作品に表された風景を想像するためにそれぞれ音読が学習活動として設定されている。

②東京書籍 小3下 pp.74-77「俳句に親しむ」

東京書籍も学習活動として、音読が設定されている。しかし、季語に着目することを盛り込んでいることが光村図書との違いである。さらに、句の中でどの語が季語かを児童同士で話し合わせることを学習活動として設定していることから、季語を重視した単元と捉えることができる。また、東京書籍は6年間の中で俳句鑑賞単元は一つしか設定されていない。

③学校図書 小3上 pp.52-57「俳句」

学校図書は児童たちに同じものを詠んだ句を収集させ、集めた句を音読させて感想を交流させることが学習活動として設定されている。児童に自身で句を収集させ、感想を交流させる学習活動を設定していることは学校図書の特徴である。また、学校図書にも音読が学習活動として設定されており、ひびきやリズムに親しむために音読が設定されていると考えられる。さらに、東京書籍も6年間の中で俳句鑑賞単元は一つしか設定されていない。

④教育出版 小3上 pp.62-67「俳句に親しむ」

教育出版も音読が学習活動として設定されている。教科書の内容から、俳句のリズムを感じさせるため、また、それぞれの句が表している場面を思い浮かべさせるために音読が設定されていると考えられる。さらに、教育出版は掲載されている句から一つ好きな句を選択させ、選んだ理由を書かせるという学習活動が設定されている。感想を述べさせる学校図書とは異なり、好きな句を選んだ理由を表現させる点が教育出版の特徴だと考えられる。教育出版も東京書籍及び学校図書と同様に6年間の中で俳句鑑賞単元は一つしか設定されていない。

[俳句創作単元]

①光村図書 小5 pp.60-63

光村図書の俳句創作単元は、「俳句は、季節を表す言葉を入れながら、五・七・五の十七音で感動を伝えます。」と示されていることから、季語及び定型を重視した単元だと考えられる。また、「生活の中で気づいたことや、おどろいたことなどを俳句にして伝えてみましょう。」と示されていることから、創作の材料を児童たちの生活の中に求めていると考えられる。さらに、光村図書は6年間の中で俳句創作単元は一つしか設定されていない。

②東京書籍 小6 pp.206-209

東京書籍も俳句創作単元の中で、「生活をふり返り、心が動いたことを俳句で表しましょう。」と述べていることから、創作の材料を児童の生活の中に求めていると考えられる。しかし、東京

書籍の俳句創作单元では、俳句の定型に言及してはいるものの、季語に関しての言及は見られない。また、東京書籍も6年間で一度しか俳句創作单元は設定されていない。

③学校図書 小5下 pp.48-51

学校図書の俳句創作单元においても、「俳句は十七音で表現する、世界で最も短い定型詩と言われています。俳句を作るときには、大事なことが二つあります。音数と季語です。」と示されていることから、季語や定型を重視していると考えられる。また、学校図書の特徴の一つとして、下五が抜けた「すず虫も草にかくれて（ ）」という句の（ ）内にいろいろな言葉を当てはめ、それぞれ情景を思い浮かべるといった活動が設定されている。学校図書においても、6年間で一度しか俳句創作单元は設定されていない。

④教育出版 小5上 pp.108-110

教育出版の俳句創作单元も、「最近の心が動いたできごとを思い出し、連想する言葉を集める。」と示されていることから、創作の材料を児童の生活の中に求めていると考えられる。また、「音に合う言葉を選び、俳句を作る。」と示されていることから、定型を重視していると考えられる。さらに、教育出版の特徴として、5年生が創作した句を掲載し、その句を読んで感じたことや表現の工夫を話し合わせる活動を設定している。教育出版においても、6年間で一度しか俳句創作单元は設定されていない。

4.2 調査Ⅱの考察

調査Ⅱの結果から、以下の2点の課題が考えられる。

1 点目は、鑑賞指導における音読の過剰な重視である。

それぞれの俳句鑑賞单元の特徴から、現行小学校国語教科書の俳句鑑賞单元では、音読を重視する傾向にあると考えられる。この点に関連することとして、松本修・井上幸信（2011）は以下のように述べている。

伝統的な言語文化の单元や学習を考えると、二つの極端な形がある。一つは、これまでの受験学力に必要とされた、中学校・高等学校での学習項目をそのまま反映させてしまい、俳句なら、「季語」「切れ字」などといった知識を説明したり覚えたりする形である。もう一つは、「親しむ」「楽しむ」ことを優先させ、ひたすら音読や暗唱に走る形である。百人一首の暗唱や、ゲームを繰り返すというだけの活動に陥る形である。暗唱は無理に強ければ「楽しむ」どころか単なる苦痛になる可能性もある。(p.81)

松本・井上（2011）が指摘しているように、音読や暗唱を無理に強ければ、親しむどころか単なる苦痛になる可能性が大いにある。また、表2から、光村図書以外は小学校6年間で俳句鑑賞单元は一度しか設定されていない。6年間の中で一度しかない俳句鑑賞单元で俳句嫌いを助長

するような授業を行ってしまうと、小学校で俳句嫌いを解消するのは難しくなる。そのため、小学校で俳句鑑賞単元を行う際は、俳句嫌いを助長しないように注意するべきである。

さらに、福田由紀（2005）は、読みの形態による詩の理解への影響について考察を行っている。福田（2005）は、音読を行うよりも、黙読・暗唱を行った方がより抽象的な広がりをもった理解に達するとしている。福田（2005）の研究結果から、音読はより高次の読みへと到達しづらい言語活動だと考えられる。闇雲に音読を行うのではなく、児童たちが鑑賞を形成することができる具体的な指導を行う必要があると考えられる。

2点目は、俳句鑑賞単元と俳句創作単元のそれぞれの内容において、鑑賞指導と創作指導の連関が意識されていない点である。

表2から、現行小学校国語教科書の俳句鑑賞単元では、音読を重視する傾向にあると考えられるが、音読を行い、俳句に親しむ学習活動は、創作指導と直接的な連関を生み出すわけではない。

さらに、俳句創作単元については、教育出版のみ教科書に掲載されている句を読んで感じたことや表現の工夫について話し合わせる言語活動が設定されている。そのため、教育出版の俳句創作単元では、鑑賞指導との連関が図られていると考えられるが、教育出版以外の俳句創作単元では、鑑賞指導との連関が図られていない。東京書籍は、俳句創作の段階に「俳句を読む」という段階が見られるが、その次の段階である「題材を集める」とどのような連関があるのかは不明である。光村図書及び学校図書に関しては、創作指導に関してしか言及していない。

しかし、調査Iで確認したように、鑑賞指導と創作指導とが連関することによって、俳句指導の効果はより高められると考えられる。それぞれの俳句鑑賞単元及び俳句創作単元の言語活動は、鑑賞指導と創作指導の連関を意識することができる言語活動を設定すべきである。

また、調査Iにおいて、光村図書は単元の配置によって鑑賞指導と創作指導の連関を生み出そうとしていることを明らかにしたが、調査IIの結果から、教育出版は俳句創作単元の中で鑑賞指導と創作指導の連関を生み出そうとしていると考えられる。ただし、教育出版の俳句創作単元においても、鑑賞指導は創作指導のために行われており、創作指導から鑑賞指導という流れは読み取ることができない。この点から、言語活動の面においても、創作指導から鑑賞指導という流れは設定されていないと考えられる。

5. 本資料のまとめと今後の課題

本研究では、鑑賞指導と創作指導の連関を図るために、俳句鑑賞単元と俳句創作単元がそれぞれ、現行小学校国語教科書にどのように配置されているのかを明らかにし、その課題について考察した。さらに、俳句鑑賞単元と俳句創作単元の配置における課題を踏まえて、現行小学校国語教科書の俳句鑑賞単元及び俳句創作単元における言語活動の内容を一覧化し、課題を考察した。

調査Iでは、現行小学校国語教科書の俳句鑑賞単元と俳句創作単元を抽出した。調査の結果、3点のことが明らかになった。1点目は、現行小学校国語教科書における俳句は、読むことの教材ではなく、言語文化に親しむための教材と捉えられていると考えられることである。2点目は、

光村図書以外の現行小学校国語教科書では、俳句鑑賞単元と俳句創作単元は連続しておらず、学年の隔たりがあることから、俳句の鑑賞指導と創作指導の連関を児童の中に生じさせることは難しいと考えられることである。また、光村図書は俳句鑑賞単元と俳句創作単元が連続していることから、俳句鑑賞単元と俳句創作単元の配置によって鑑賞指導と創作指導の連関を生み出そうとしていると考えられる。3点目は、鑑賞指導から創作指導という単元の流れはあるが、創作指導から鑑賞指導という単元の流れはないことである。

さらに、調査Ⅱでは、現行小学校国語教科書の俳句鑑賞単元と俳句創作単元の言語活動をそれぞれ抽出した。調査の結果、2点のことが明らかになった。1点目は、現行小学校国語教科書の俳句鑑賞単元では、音読を重視する傾向にあり、鑑賞のための手立ては示されていないことである。2点目は、教育出版の俳句創作単元以外では、鑑賞指導と創作指導の連関を意識した言語活動にはなっていないことである。また、教育出版は俳句創作単元の内容から、俳句創作単元中で鑑賞指導と創作指導の連関を生み出そうとしていると考えられる。しかし、教育出版の俳句創作単元においても、鑑賞指導は創作指導のために行われており、創作指導から鑑賞指導という流れは読み取ることができない。

従来、俳句単元における創作指導から鑑賞指導という流れの単元配置及び言語活動の欠如は指摘されていなかった。しかし、三藤（2014）の実践において、物語の創作指導が読解指導に好影響を与えたことを踏まえると、俳句単元においても、創作指導から鑑賞指導という流れでも単元あるいは言語活動を設定する必要があると考えられる。

また、仁野平智明（2016）は、平成16年、平成22年、平成26年検定済国語教科書の俳句教材を比較し、平成26年検定済国語教科書における俳句鑑賞教材の俳句に関する文法的、文学的知識の偏重及び句の鑑賞文を掲載することで児童の句に対する読解が鑑賞文に影響されることを指摘しつつ、児童が独力で句に対して「情景を思い浮かべながら」読むことは難しいとも述べており、発達段階に応じて丁寧に読解を進められる教材化が望まれるとしている。しかし、本稿の平成31年検定版小学校国語教科書を対象とした分析によって、児童の鑑賞を形成するための単元あるいは言語活動は依然として設定されていないことが明らかになった。このことから、仁野平（2016）が述べている「丁寧に読解を進められる教材化」は未だ実現されていないと考えられる。

以上の調査結果及び考察を踏まえて、今後の課題は次の2点が考えられる。

1点目は、創作指導から鑑賞指導という流れでも単元、あるいは言語活動を設定することである。現行小学校国語教科書では、鑑賞指導から創作指導という流れでしか単元及び言語活動は設定されていない。しかし、鑑賞指導と創作指導は一方通行ではなく、お互いに行き来することで、それぞれの指導の効果を向上させることができると考えられる。よって、創作指導から鑑賞指導という流れでも指導を実施する必要がある。

2点目は、鑑賞の手立てを示すことである。現行小学校国語教科書における俳句鑑賞単元では、音読を過剰に重視しており、鑑賞のための手立てが示されていない。児童が鑑賞を形成するための指導を行う必要がある。

注

- (1) 西田・高木（2012）は、小学生と中学生を対象として論を展開している。そのため、ここでの「学習者」とは、小学生及び中学生を指す。

参考・引用文献

- ・青木幹勇（1992）『授業 俳句を読む，俳句を作る』太郎次郎社．
- ・石塚修（2013）「『切れ』からはじめる俳句の創作指導」『人文科教育研究』40，pp.41-48，人文科教育学会．
- ・倉澤栄吉（1956）『読解指導』朝倉書店（『倉澤栄吉国語教育全集 第七巻』角川書店，1988 所収）
- ・外山滋比古（1963）『近代読者論』垂水書房．
- ・西尾実（1951）アテネ文庫一四〇『国文学入門』弘文堂．（『西尾実国語教育全集 第一巻』教育出版，1974 所収）
- ・西田拓郎・高木恵理（2012）『俳句の授業をたのしく深く』東洋館出版社．
- ・仁野平智明（2016）「小学校国語教科書教材に見る「伝統的な言語文化に関する事項」新設の影響－俳句教材の変遷を中心に－」『熊本大学教育学部紀要』65，pp.7-15，熊本大学．
- ・福田由紀（2005）「読みの形態による詩の理解への影響」『日本認知心理学会発表論文集』2005，p.80，日本認知心理学会．
- ・藤井囃彦・習志野市立大久保小学校国語科研究部（2008）『国語科・授業改革双書 No.5 言葉の力をつける俳句単元の計画と指導』明治図書出版．
- ・松本修・井上幸信（2011）「伝統的な言語文化の学習を成立させる条件」『臨床教科教育学会誌』11（2），pp.81-87，臨床教科教育学会．
- ・三藤恭弘（2014）「『物語の創作』と『物語の読解』の関連学習指導に関する研究－『物語の方法』を共通項として－」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第二部 63，pp.155-164，広島大学大学院教育学研究科．
- ・文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 国語編』東洋館出版社．
- ・横濱嵩之（2019）「中学校国語教科書における詩創作活動単元の内容と課題」『人文科教育研究』46，pp.61-72，人文科教育学会．

[国語教科書]

- ・秋田喜代美他（2020）『あたらしいこくご 一上』東京書籍．
- ・秋田喜代美他（2020）『あたらしいこくご 一下』東京書籍．
- ・秋田喜代美他（2020）『新しい国語 二上』東京書籍．
- ・秋田喜代美他（2020）『新しい国語 二下』東京書籍．
- ・秋田喜代美他（2020）『新しい国語 三上』東京書籍．
- ・秋田喜代美他（2020）『新しい国語 三下』東京書籍．

- ・秋田喜代美他（2020）『新しい国語 四上』東京書籍．
- ・秋田喜代美他（2020）『新しい国語 四下』東京書籍．
- ・秋田喜代美他（2020）『新しい国語 五』東京書籍．
- ・秋田喜代美他（2020）『新しい国語 六』東京書籍．
- ・甲斐睦朗他（2020）『こくご 一上 かざぐるま』光村図書．
- ・甲斐睦朗他（2020）『こくご 一下 ともだち』光村図書．
- ・甲斐睦朗他（2020）『こくご 二上 たんぼほ』光村図書．
- ・甲斐睦朗他（2020）『こくご 二下 赤とんぼ』光村図書．
- ・甲斐睦朗他（2020）『国語 三上 わかば』光村図書．
- ・甲斐睦朗他（2020）『国語 三下 あおぞら』光村図書．
- ・甲斐睦朗他（2020）『国語 四上 かがやき』光村図書．
- ・甲斐睦朗他（2020）『国語 四下 はばたき』光村図書．
- ・甲斐睦朗他（2020）『国語 五 銀河』光村図書．
- ・甲斐睦朗他（2020）『国語 六 創造』光村図書．
- ・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉 小学国語 一上』教育出版．
- ・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉 小学国語 一下』教育出版．
- ・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉 小学国語 二上』教育出版．
- ・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉 小学国語 二下』教育出版．
- ・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉 小学国語 三上』教育出版．
- ・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉 小学国語 三下』教育出版．
- ・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉 小学国語 四上』教育出版．
- ・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉 小学国語 四下』教育出版．
- ・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉 小学国語 五上』教育出版．
- ・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉 小学国語 五下』教育出版．
- ・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉 小学国語 六上』教育出版．
- ・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉 小学国語 六下』教育出版．
- ・鶴田清司・大岡信・新井満（2020）『みんなとまなぶ しょうがっこう こくご 一ねん上』学校図書出版．
- ・鶴田清司・大岡信・新井満（2020）『みんなとまなぶ しょうがっこう こくご 一ねん下』学校図書出版．
- ・鶴田清司・大岡信・新井満（2020）『みんなと学ぶ 小学校 こくご 二年 上』学校図書出版．
- ・鶴田清司・大岡信・新井満（2020）『みんなと学ぶ 小学校 こくご 二年 下』学校図書出版．
- ・鶴田清司・大岡信・新井満（2020）『みんなと学ぶ 小学校 国語 三年 上』学校図書出版．
- ・鶴田清司・大岡信・新井満（2020）『みんなと学ぶ 小学校 国語 三年 下』学校図書出版．

- ・鶴田清司・大岡信・新井満 (2020)『みんなと学ぶ 小学校 国語 四年 上』学校図書出版.
- ・鶴田清司・大岡信・新井満 (2020)『みんなと学ぶ 小学校 国語 四年 下』学校図書出版.
- ・鶴田清司・大岡信・新井満 (2020)『みんなと学ぶ 小学校 国語 五年 上』学校図書出版.
- ・鶴田清司・大岡信・新井満 (2020)『みんなと学ぶ 小学校 国語 五年 下』学校図書出版.
- ・鶴田清司・大岡信・新井満 (2020)『みんなと学ぶ 小学校 国語 六年 上』学校図書出版.
- ・鶴田清司・大岡信・新井満 (2020)『みんなと学ぶ 小学校 国語 六年 下』学校図書出版.

(郁文館夢学園)

別表1 平成31年検定版小学校国語教科書の俳句単元に掲載されている句一覧

	光村図書	東京書籍	学校図書	教育出版
小三年・上	<p>「俳句を楽しもう」 古池や蛙飛びこむ水の音 閑かさや岩にしみ入る蝉<small>松尾芭蕉</small> 春の海終日のたりのたりのかな<small>松尾芭蕉</small> 菜の花や月は東に日は西に<small>与謝蕪村</small> 雪とけて村いっばいの子どもかな<small>与謝蕪村</small> 夏山や一足づつに海見ゆる<small>小林一茶</small></p>		<p>「俳句」 ふる池や蛙飛びこむ水の音<small>松尾芭蕉</small> やせがえるまけるな一茶これにあり<small>小林一茶</small> 青蛙おのれもペンキぬりたてか<small>芥川龍之介</small> 梅一輪一輪ほどのあたたかさ<small>服部嵐雪</small> 菜の花や月は東に日は西に<small>与謝蕪村</small> 咲き満ちてこぼるる花もなかりけり<small>高浜虚子</small> 紫陽花に秋冷いたる信濃かな<small>杉田田女</small> 名月や池をめぐりて夜もすがら<small>松尾芭蕉</small> 名月をとってくれろと泣く子かな<small>小林一茶</small> 柿の葉や一つ一つに月の影<small>夏目漱石</small> 月さして風鈴の影生まれけり<small>清崎敏郎</small> 閑かさや岩にしみ入る蝉の聲<small>松尾芭蕉</small> 月の夜や石に出て鳴くきりきりす<small>加賀千代女</small> 赤とんぼ筑波に雲もなかりけり<small>正岡子規</small> しずかなる力満ちゆきばつたとぶ<small>加藤楸邨</small></p>	<p>「俳句に親しむ」 せみの声遊べ遊べと聞こえる日<small>山崎早季子</small> 雪とけて村いっばいの子どもかな<small>小林一茶</small> 菜の花や月は東に日は西に<small>与謝蕪村</small> はねわっててんとう虫のとびいする<small>高野素十</small> さじなめて童たのしも夏水<small>山口誓子</small> 名月や池をめぐりて夜もすがら<small>松尾芭蕉</small> かきくえば鐘が鳴るなり法隆寺<small>正岡子規</small> せきの子のなぞなぞあそびきりもなや<small>中村汀女</small> 妹を泣かして上がる絵すころく<small>熊まどか</small></p>
小三年・下		<p>「俳句に親しむ」 閑かさや岩にしみ入る蝉の聲<small>松尾芭蕉</small> 雪とけて村いっばいの子どもかな<small>小林一茶</small> ゆさゆさと大枝ゆるる桜かな<small>村上鬼城</small> 菜の花や月は東に日は西に<small>与謝蕪村</small> 青蛙おのれもペンキぬりたてか<small>芥川龍之介</small> ひつばれる糸まつすぐや甲虫<small>高野素十</small> 赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり<small>正岡子規</small> をりとりてはらりとおもきすすきかな<small>飯田蛇笏</small> 名月を取つてくれろとなく子かな<small>小林一茶</small> スケートの紐むすぶ間も逸りつつ<small>山口誓子</small> 雪の朝二の字二の字の下駄の跡<small>田捨女</small> 遠山に日の当たりたる枯野かな<small>高浜虚子</small></p>		

	光村図書	東京書籍	学校図書	教育出版
小四年・上	<p>【短歌・俳句に親しもう（一）】 名月や池をめぐりて夜もすがら 夏河を越すうれしさよ手に草履 雀の子そこのけそこのけ御馬が通る</p> <p>松尾芭蕉 与謝蕪村 小林一茶</p>			
小四年・下	<p>【短歌・俳句に親しもう（二）】 柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺 桐一葉日当たりながら落ちにけり 外にも出よ触るるばかり</p> <p>正岡子規 高浜虚子 中村汀女</p>			
小五年・上	<p>【日常を十七音で】 〔創作例として掲示〕 にじの橋雨のしずくのすべり台 次は勝つボールをけて夏の空 雪だるま星のおしやべりべちやくちやと すずらのりりりりと風に在り 行く秋やつづくおしと鳴くせみか 行く秋やつづくおしと蟬の鳴く をりとりてはらりとおもきすすきかな チチポポと鼓打たうよ花月夜</p> <p>谷口ほのか 松岡元毅 松本たかし 日野草城 小林一茶 小林一茶 飯田蛇笏 松本たかし</p>			<p>【俳句を作ろう】 〔鑑賞の対象として掲示〕 赤とんぼ飛び立つ田んぼ のひらに桜ひらひら ひまわりといっしょにぐんぐん あそぼうよてまねきしてる 雪だるままん丸の目で空見てる</p> <p>黄金色 佐伯京香 清家京一郎 渡海航 落葉たち 萩野心那 成田有梨亜</p>
小五年・下			<p>【俳句・短歌を作ろう】 〔創作例として掲示〕 名月をとつてくれるとなく子かな</p> <p>小林一茶</p>	
小六年・上		<p>【心が動いたことを十七音で表そう】 〔鑑賞の対象として掲示〕 赤ちゃんの親ゆび小ゆびつくしの子 あじさいをほんほんたく帰り道 あきあかね光るぶたいでパーティーだ</p> <p>七尾葵 北野堯大 中原直寛 小川愛里</p>		
小六年・下				